

5 外科

部長 市東 昌也

【診療科紹介】

(1) 食道・胃外科

上部消化管グループは主として、食道・胃の疾患の診療を行っております。食道外科専門医認定施設として、食道良性疾患、食道癌の手術等、より専門性の高い手術において、最適な低侵襲治療を提供できるチームづくりを行っております。また、患者さんに優しい治療とともに、病気に対する治療の根治性をより高いレベルで提供できるように日々追求しています。

(2) 大腸・肛門外科

大腸・肛門疾患について、内視鏡診断から手術まで専門医が担当しております。大腸癌に対しては得意とする腹腔鏡手術を、直腸癌に対してはさらに手術支援ロボット（Da Vinci）も使い、「根治性を損なわず、より低侵襲な治療」を目指して診療にあたります。転移がある場合でも、腫瘍内科と密に連携をとり、抗癌剤や放射線治療を駆使してその後の治療とより良い予後に繋がる道を探って参ります。肛門疾患についての診断・治療も積極的に行っております。患者さん個々に合った治療を、一緒に考えて参ります。

(3) 肝胆膵外科

日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設として肝胆膵領域の専門診療に対応しています。より専門性の高い高度な医療を重視する診療体制です。当科では日本肝胆膵外科学会名誉指導医・専門医を含めた3人の肝胆膵外科医が勤務し、低侵襲手術から拡大手術まで柔軟かつ有機的に治療を行います。

6 乳腺外科

部長 萬谷 京子

【診療科紹介】

乳腺外科では、乳腺専門医を責任者として、乳房や腋窩に発生する疾患の診療を行っております。診断のため、マンモグラフィ検査（トモシンセシス可能）、乳房超音波検査、乳房造影MRI検査、超音波ガイド下針生検・吸引式乳腺組織生検などの検査を可及的速やかに行います。検査結果に応じて、標準的と考えられる治療方針をご提案し、患者さんのご希望を尊重しながら、患者さんおひとりおひとりに一番適切な治療を行うことを目指しています。当科では、乳腺・腋窩の悪性病変（乳癌、悪性葉状腫瘍、他臓器癌の転移など）・良性病変（線維腺腫、乳管内乳頭腫、良性葉状腫瘍、乳腺症、急性乳腺炎、乳輪下膿瘍、Mondor病など）の専門診療に対応しています。小児の乳癌の患者さんの検査・治療の経験もありますので、乳腺腫瘍が疑われる小児の方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただけたらと思います。なお、当科では、平成30年にほぼ無痛で行える局所麻酔の方法を考案いたしましたので、

局所麻酔下の組織検査・膿瘍の切開排膿、乳腺腫瘍摘出術などの検査・処置・手術は、当科ではほぼ無痛でお受けいただけます。

7 血管外科

部長 和多田 晋

【診療科紹介】

● 「末梢動脈疾患」の診療

閉塞性動脈硬化症、腹部大動脈瘤など動脈瘤疾患に対しては、低侵襲である血管内治療を積極的に導入しておりますが、当科の強みである外科的治療や薬物療法も併用したハイブリッド治療を行っております。

● 「静脈、リンパ管疾患」の診療

深部静脈血栓症、リンパ浮腫、下肢静脈瘤などを精査加療いたします。

静脈瘤に対する治療においては、レーザー機器を導入し、ストリッピング術、硬化療法を含め患者さんのニーズに合わせた治療を行っております。

8 内視鏡センター

所長 澤藤 誠

副所長 井上 健太郎

【診療科紹介】

当院は日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されており、消化器内科・外科、呼吸器内科・外科の医師たちが横断的に密接に連携し合っており、患者さんにとって最良の治療法を決定し実施しています。当内視鏡センターは、早くから電子ファイリングシステムを導入し、高画質ハイビジョン対応内視鏡による白色光観察をはじめNBI観察、拡大観察に取り組み、さらに経鼻用細径内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、小腸カプセル内視鏡も揃え、消化器、呼吸器それぞれの分野で専門的知識と高度技術を持った専門医が精度の高い内視鏡診断と治療を提供しています。また、消化器・呼吸器疾患の内視鏡診断・治療に対する高度専門医療を常時提供する検査体制を敷き、消化管出血、化膿性胆管炎等の急性期疾患に対しても24時間体制で対応しています。

【令和5年度の取組】

医療連携を重要視し、連携医療機関から直接上部消化管内視鏡検査、大腸内視鏡検査を患者総合サポートセンター経由で予約することができるようになっています。また、術後再建腸管に対する膵・胆道内視鏡検査・治療にも積極的に取り組み、さらに治療的EUSにも力を入れ、益々の充実を図ってきています。

9 呼吸器外科

部 長 澤 藤 誠

【診療科紹介】

呼吸器外科では、肺癌、縦隔腫瘍、胸膜中皮腫などの腫瘍性疾患や、気胸、肺真菌症などの良性疾患に対する、呼吸器・縦隔領域の外科治療、および気管・気管支ステントなどの内視鏡治療を担当しています。診断や治療方針に関しては、毎週行われる呼吸器内科、放射線科との合同カンファレンスでも検討を行い、最良の診療を行うように心がけています。

手術は、胸腔鏡手術がほとんどを占め、気管支・血管形成手技を応用した肺を温存する術式の適応など、侵襲を少なくするための手術手技上の工夫をできるかぎり行うように努めています。

【令和5年度の取組】

4月より井澤担当部長が東京歯科大学市川総合病院に異動となり、常勤医は澤藤、岩丸担当部長、奥井医長の3名となりました。平成30年2月から行っている当院医師による井田病院呼吸器外科の外来診療を今年度も引き続き行いました(澤藤、奥井がそれぞれ週1回)。

新型コロナウイルス感染禍の影響で、当科の入院患者数、手術数は令和2年度に減少をみましたが、翌年の令和3年度から、コロナ以前の水準に戻り、今年度もその傾向が続きました。引き続き質の高い医療を提供することで地域から信頼されることを目指していきます。

10 心臓血管外科

部 長 澤 藤 誠
医 長 灰 田 周 史

【診療科紹介】

平成元年に開設されて以来、当院は川崎市南部地域の中核病院としての役割を担ってまいりました。令和4年から現在の新しいチーム体制となり、弁膜症、冠動脈疾患、大動脈解離、胸部大動脈瘤、不整脈に対する手術治療を担当しています。関係各部門のご協力のもと、徐々に開心術の件数も増加しており、感謝申し上げます。今後も個々の患者さんに対して最適かつ安全な治療を提供することを考えながら、患者さんご家族が納得・安心して治療を受けていただけるよう、常に模索を続けていく所存であります。引き続きご助力お願いいたします。

11 脳神経外科

部 長 片 山 真

【診療科紹介】

約150万人が居住する川崎市の拠点病院脳神経外科として高度な専門性医療を行うことが求められていると考えております。脳腫瘍集学的治療、不随意運動に対する深部脳刺激療法(Deep brain stimulation)を数多く担当させていただいております。一般脳神経外科疾患や地域医療にも貢献することを目指しております。病院の基本理念である「病氣」ではなく「病人」を診ることを貫徹し、患者様に寄り添ったプロフェッショナルな治療を施すべく努力をしております。

12 整形外科

部 長 小 宮 浩 一 郎

【診療科紹介】

運動器の障害、すなわち骨折を主とした外傷、脊椎脊髄疾患、上下肢の関節および手指機能障害、スポーツ障害、骨軟部腫瘍等に対する治療を行っています。救急科を窓口として3次救急を積極的に受けているため、多発外傷、重症例も多く、他科医師およびコメディカルも含めた多職種で協力し、最大限のパフォーマンスを発揮できるようチーム医療で取り組んでいます。領域別のスペシャリストにより構成された脊椎脊髄病センター、肩関節外科センター、関節機能再建・人工関節センター、手肘外科センター、骨軟部腫瘍外科が診療のコアとなり、日進月歩の医療の中においても最新で専門的かつ高度な手術加療を提供できるよう努めています。高齢化社会の重要課題の1つである骨粗鬆症についても、大腿骨近位部骨折に続く骨折の連鎖、すなわち2次性骨折の予防を主眼に周辺医療機関と連携し、地域におけるスムーズかつシームレスな加療の拡充を目指しています。

【令和5年度の取組】

(1) 脊椎脊髄病センター

令和5年4月に「脊椎脊髄病センター」を設立以来、地域の医療機関との連携を深めつつ、難治性疾患や困難な外傷例にも立ち向かう川崎地区最後の砦として、より専門性の高い医療に取り組んで参りました。

主に頰椎症性脊髄症・神経根症・筋萎縮症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、腰椎椎間板ヘルニアを治療対象としています。診療方針として手術の即断はなるべく避け、正確な診断および保存療法を重視していますが、手術が必要な場合には低侵襲手術による早期社会復帰を心がけています。

また、増加の一途にある骨粗鬆症をベースとした脊椎骨折・骨盤骨折に対しては、より強固な固定術を行うことで再手術や術後合併症を減らすと同時に、骨粗鬆症に対する薬物療法の介入にも注力しております。

(2) 肩関節外科センター

「肩関節外科センター」では肩関節、肩鎖関節、肩甲帯に関連した疾患・外傷・スポーツ障害について、専門性の高い治療を行っています。

腱板断裂に対する関節鏡を使った低侵襲な腱板修復術や、変形性肩関節症、関節リウマチ等による関節症に対する人工肩関節置換術、凍結肩に対する鏡視下関節授動術、肩関節脱臼に対する関節鏡視下関節唇修復術、肩鎖関節脱臼に対する靭帯再建術などを行っているほか、上腕骨近位部骨折に対する骨接合術や人工骨頭置換術、リバーstype人工肩関節置換術、複雑な肩甲骨骨折、鎖骨骨折に対する骨接合術にも積極的に取り組んでいます。

(3) 関節機能再建・人工関節センター

「関節機能再建・人工関節センター」では膝および股関節を専門とし、人工関節置換術や関節鏡視下手術に習熟した医師が在籍、様々な下肢疾患に対応しています。

変形性関節症、関節リウマチや骨・骨頭壊死に対する人工関節置換術（膝・股）を得意としていますが、令和 5 年度からは人工膝関節置換術で新たに「手術支援ロボット」を導入、長期予後の延伸を目指した 1mm, 1 度の精度向上の取り組みを開始しました。

また、当センターでは半月板損傷、十字靭帯損傷、軟骨損傷、滑膜炎や膝蓋骨不安定症を対象に低侵襲な関節鏡視下手術も積極的に行っています。特に半月板損傷に対しては関節機能温存を重視した鏡視下縫合術や制動術、骨切り併用手術等に取り組んでいます。

(4) 手肘外科センター

「手肘外科センター」では慶應義塾大学整形外科学教室およびその関連病院で手肘外科の豊富な経験を積んだ医師が手術を行っています。

当院は日本手外科学会研修施設に認定されており、手術件数も県内屈指となっています。手肘の外傷（骨折、神経断裂、腱断裂等）、骨折後の変形治癒、偽関節（舟状骨偽関節等）、手指や肘の関節拘縮、末梢神経障害（手根管症候群、肘部管症候群等）、リウマチ手やリウマチ肘、テニス肘、TFCC 損傷、キーンベック病、変形性関節症（母指 CM 関節症、変形性肘関節症等）などの疾患に対して専門的な治療を提供しているほか、術後成績を左右するリハビリについてもしっかりと行えるようハンドセラピストが常駐し対応しております。

(5) 骨軟部腫瘍外科

骨・軟部腫瘍医の竹内医師が常勤となり、整形外科領域（運動器領域）の骨・軟部組織に発生した腫瘍に対応しております。骨は四肢・体幹（鎖骨・肋骨・骨盤骨など）、軟部組織は筋肉・脂肪・皮下・末梢神経に発生する腫瘍を対象に治療しています。原発性腫瘍だけでなく転移性腫瘍も扱っておりますが、脊椎・脊髄腫瘍に関しては「脊椎脊髄病センター」で対応を行っています。

13 リハビリテーション科

部長 阿部 玲音

【診療科紹介】

当院のような急性期病院では、さまざまな疾病や外傷、またその治療に伴う安静・臥床によって、障害が残存し、入院前の身体機能を維持できず、自宅退院が困難となる可能性があります。当科では、そのような患者に対し、できるだけ障害を軽減し、早期の自宅復帰ができるように、主治医や病棟を始め、多職種と連携して、理学療法・作業療法・言語療法・嚥下療法等の様々なリハビリテーション医療を提供しています。

【令和5年度の取組】

- 川崎市立病院経営計画に基づく取り組みについては、以下の事項を継続中です。
- (1) 効率の良いリハビリテーション医療の提供のため、病棟でのリハビリテーションを行うのと同時に、病棟リハ室の設置準備を継続している。併せて、病棟環境の改善のための取り組みを継続しています。
 - (2) ICU や救急病棟を中心とした早期リハビリテーションの積極的な導入・拡大を進めています。
 - (3) 令和元年度以降の療法士増員に伴う管理・指導体制を充実するとともに、リハビリテーション科内の組織再編を継続し、効率良く、自主性・自律性に富んだ組織作りを行っています。
 - (4) 日常生活動作の評価法である「機能的自立度評価法（FIM）」を、療法士・看護師が評価できるように院内研修を継続しています。

上記以外としては、栄養サポートチーム・緩和ケアチーム・呼吸器回診・認知症ケア回診などの院内の他職種連携チームでの積極的な活動を継続するとともに、糖尿病教室・がんサロン・市民公開講座等での市民への啓発活動などを、現地およびオンラインにて継続しています。

【令和5年度業務実績】

(1) リハビリテーション科新規患者数および実施単位数

	患者数	単位数
脳血管疾患	663	45,091
運動器疾患	1,029	27,741
呼吸器疾患	596	24,512
心大血管疾患	279	4,908
廃用症候群	1,361	36,578
がん	565	14,357
合計	4,493	153,187

(2) リハビリテーション科での検査等の件数

- ア 筋電図（リハビリテーション科担当分）：96件
イ 嚥下造影：438件
ウ 嚥下内視鏡：5件
エ ボツリヌス療法：39件（患者数11名）

14 形成外科

部 長 西 脇 正 夫
副 医 長 角 美 帆

【診療科紹介】

形成外科は、先天性の身体表面の変形や色の変化、外傷や手術後の欠損や変形を出来るだけ正常な状態に近づけるように修復し、**QOL**の改善を図り、早期の社会復帰を助ける外科の一分野です。

皮膚や軟部組織を対象としていますが、顔面に関しては骨の病気や外傷も治療しています。また、がん治療後や外傷後の変形を修復する再建医療も、形成外科の扱う分野の一つです。

15 皮膚科

部 長 原 智
医 長 西 本 周 平

【診療科紹介】

皮膚科は3人体制で診療しております。当院の皮膚科は「皮膚疾患全般」に対応しますが、病院皮膚科としてクリニックなどで対応困難な疾患により注力しています。特に皮膚腫瘍（良性・悪性）の診断・治療（手術・化学療法など）や難治な乾癬・アトピー・蕁麻疹などへの生物学的製剤導入などには高い専門性をもって取り組んでいます。その他、内服・外用など通常の治療で効果不十分な難治な皮膚疾患への精査・加療、川崎南部医療圏では数少ない皮膚科入院病床を有する病院として、皮膚感染症（蜂巣炎や帯状疱疹など）や重症な中毒疹など入院を要する疾患の入院治療を行っています。

16 泌尿器科

部 長 原 智

【診療科紹介】

泌尿器科では、尿路悪性腫瘍（腎癌、腎盂・尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍）、副腎腫瘍、尿路結石症、前立腺肥大症などに対して、負担の少ないロボット手術・腹腔鏡手術や経尿道的手術を積極的に取り入れ、生活の質（**QOL**）を重視した、患者さんに優しい医療を提供しております。

【令和5年度の取組】

手術支援ロボット（ダビンチ）を用いたロボット手術を合計で89例（前立腺癌；54例、腎癌；24例、膀胱癌；10例、腎盂形成術；1例）に施行しました。また、**da Vinci** 以外での腹腔鏡下手術を合計35例（腎摘、膀胱全摘など）施行しました。

17 産科・婦人科

部長 中田 さくら

【診療科紹介】

当科は地域周産期母子医療センターとして、新生児内科/NCUと連携して、川崎市南部地域の周産期救急の中核病院としての役割を担っています。周産期ハイリスク妊婦の管理、母体搬送の受け入れだけでなく、社会的支援が必要な妊産婦の管理も地域と連携して行っています。令和5年度には出生前検査を開始し、産婦人科遺伝相談外来を設置しました。また、6月より麻酔科医の協力のもと無痛分娩を開始しました。

婦人科手術も数多く行い、良性疾患から悪性腫瘍手術に至るまで幅広く対応しております。とりわけ伝統的に内視鏡手術症例が豊富であり、安全性を重視した低侵襲な手術を心掛けております。昭和60年に当科で開発された子宮鏡手術については、県内県外問わず多数の患者さんの御紹介を頂いております。

18 眼科

部長 上田 誠司
医 長 三田村 浩人

【診療科紹介】

白内障手術をはじめ、角膜専門外来・網膜硝子体専門外来・小児眼科外来など総合病院ならではの幅広い眼疾患に対応できるように診療体制を整えています。

「対応可能な治療」

白内障手術（入院・日帰りいずれも対応可）・硝子体手術・角膜移植術・羊膜移植術・翼状片切除術・結膜弛緩症手術・結膜嚢胞切除・霰粒腫摘出術・硝子体注射・各種レーザー治療（HDT・YAG・PRP）・ステロイドパルス治療・涙点閉鎖術、涙点プラグ・眼瞼痙攣ボトックス治療・斜視手術・小児の睫毛内反手術・一部の緑内障手術（線維柱帯切開術）

【令和5年度の取組】

令和5年5月から米国から輸入した海外ドナー（待機期間最短1週間）を用いた角膜移植を開始しました。適応疾患は水疱性角膜症、円錐角膜、角膜混濁、角膜ジストロフィーなどで、全層角膜移植、深部層状角膜移植、表層角膜移植、角膜内皮移植など多くの術式に対応可能です。術後の経過観察は近医の先生方にフォローアップの手引きも用意していますので、日本全国どこからの紹介も受け入れています。入院期間は約1週間です。局所麻酔または全身麻酔にて行います。角膜移植はすべて保険診療で行っています。窓口で支払う医療費が1か月で上限額を超えた場合、その超えた額を支給する「高額療養費制度」の対象となるため患者さんの負担を大幅に軽減することが可能です。

令和5年6月から白内障手術において多焦点眼内レンズ（選定療養費）の取り扱いを開始しました。選定療養とは、患者さんご自身が選択して受ける追加的な医療サービスで、その分の費用は全額自己負担となります。令和6年10月から緑内障外来を開始するため、準備も行っています。

19 耳鼻咽喉科

部長 重富 征爾

【診療科紹介】

当科では耳・鼻・咽頭喉頭にとどまらず、鎖骨から上の範囲で頭蓋・脳脊髄・眼球・歯を除いた、いわゆる「頭頸部」の広い範囲を担当しています。すなわちQOL (quality of life: 生活の質) に直接影響する聴覚・嗅覚・味覚・平衡覚などの感覚機能、口腔・咽頭・喉頭が担う咀嚼・嚥下・呼吸・発声・構音などの運動機能に関わる診療を行っています。これらの機能を改善する診療を通して QOL の向上に貢献する役割を使命とし、近接する境界領域の専門的各診療科との連携を重視しながら、安全で且つ質の高い医療の実践に努めています。

当院ではもちろん耳鼻咽喉科疾患全般を診療していることに加え、さらに頭頸部領域の腫瘍性疾患にも広く対応しています。頭頸部悪性腫瘍（口腔癌・上咽頭癌・中咽頭癌・下咽頭癌・喉頭癌・鼻副鼻腔癌・唾液腺癌・甲状腺癌など）の治療においては根治性の向上だけでなく、身体的侵襲をできるだけ少なくすると同時に、治療後の機能を可能な限り良くすることを考慮しています。専門的な知識と豊富な経験に基づいて、進行癌に対しても手術・放射線治療・化学療法を適確に組み合わせ、個々の患者さんに最適な治療法を選択するようにしています。関連各領域の専門診療科との良好な診療連携を築くことにより、きめ細かい高度なチーム医療の推進を心掛けています。

【令和5年度の取組】

早期の下咽頭癌・声門上癌に対しては、根治性と喉頭機能温存を両立する低侵襲な手術治療として、鏡視下咽頭喉頭悪性腫瘍手術を積極的に行っております。また令和3年より鼻茸を伴う難治性好酸球性副鼻腔炎に対して、指定難病医療費助成制度を利用したデュピルマブ治療を外来にて施行しております。

20 歯科口腔外科

部長 鬼澤 勝 弘

【診療科の紹介】

当科は川崎市南部地域における口腔外科の基幹病院で、口腔顎顔面領域に現れるすべての疾患の診療を行っており、特に埋伏歯抜歯、歯根端切除術、外科矯正治療（下顎前突症など）、口腔腫瘍、顎関節症、顎顔面骨折、インプラント矯正、歯科インプラント治療などの手術を対象としています。治療においてはコーンビームCTによる詳細な診断と3Dプリンター顎骨模型による術前計画を綿密に行い、安全で正確な手術を施行しています。専門外来は保存補綴顎関節症（畑澤）、歯科インプラント（安居、鬼澤、河奈）、顎変形症（鬼澤、安居、柴）、歯根端切除術（軽部）、歯科矯正相談（鬼澤）を開設しています。

当科における顎骨歯槽手術の方針としては末梢神経障害の防止、腫瘍摘出術時の抜歯本数の最小化、歯根端切除術の応用による歯の積極的保存、歯科インプラント体埋入の安全で安定した高い成功率、患者ニーズに基づいた顎矯正手術を常に心掛けています。

また、かかりつけ医院の先生方と緊密に連携をとり、患者様に対して疾患や治療について丁寧に説明し、十分なお理解とご納得をして頂いた上で治療を行うことに努めています。治療後は、かかりつけ医院へお戻しすることを原則としています。

【令和5年度の取組】

人事では、田中健太先生が専攻医2年目（卒後5年目）として継続診療いたしました。非常に真面目で勤勉であるので、川崎病院の2年間で外来、病棟、手術のそれぞれの技術がかなり向上しました。これは、ひとえに本人の努力の賜物だと思います。今後、さらに多くの手術技術を習得し、臨床に研究に大いに期待しております。

外来手術においては、嚴重な感染予防対策のもとで施行しました。幸い当科からの院内感染は認められませんでした。外来手術は2列で埋伏歯抜歯1,164例でした。抜歯と難抜歯手術1,335例は昨年と同様にコロナ前よりも増加を継続いたしました。全身麻酔下手術は年度当初より、ほぼ問題なく施行され、顎矯正手術は安定した症例数でした（9例）。顎骨骨髓炎手術は7例と増加傾向でした。

口腔外科学会専門医について、前専攻医の矢島先生は専門医、前専攻医で立川病院へ赴任された長嶺先生が認定医を取得されました。

研究については、抜歯、顎骨壊死、腫瘍の診断と治療、インプラント関連、骨再生、口腔組織由来幹細胞を用いた再生医療を中心に展開しています。画像所見に基づいた顎骨壊死の予後に関する研究はDentomaxillofacial Radiologyに掲載されました。口演発表は3演題で、AA アミロイドーシスの症例報告は投稿中です。また、歯髄幹細胞を用いた顎骨壊死に関する慶應義塾大学との共同研究（基礎研究）は、科学研究費の助成を受け継続しています。増加傾向であり、様々な要因と病態が重なり合う顎骨壊死における保存治療の一つとして、再生療法の重要性が増していると思われませんが、安居先生を中心に、その社会的責任を自覚し、川崎市民の健康の向上の一助になるよう、日々の診療後にコツコツと研究を継続しております。

社会的貢献として、第33回川崎病院症例検討会“日常臨床のこんな時どうするPart2”を歯科医師会館にて行いました。

21 放射線診断科・放射線治療科

放射線診断科

部長 倉田 忠 宜

【診療科の紹介】

放射線診断科では主に CT、MRI について整形外科領域など一部を除き原則として当日中に診断レポートを作成し、オンラインで院内に配信しています。腹部・表在の超音波診断を含め、総合的に画像診断を行っています。IVR（画像下治療；画像診断技術を応用したより侵襲の少ない治療）も各科と協力して施行しており、肝がんに対する肝動脈化学塞栓療法やラジオ波焼灼療法、閉塞性動脈硬化症やシャント不全に対する血管拡張術、外傷や消化管出血に対する緊急塞栓術、画像ガイド下のドレナージ術や生検なども担当しています。

平成 30 年 4 月よりがん診療の充実を図るため、川崎市南部地域では初めて PET-CT 装置を導入しました。がんの広がり、転移、再発病巣検出など、精度の高い画像を得ることができる装置で、がん診療に貢献しています。

【令和 5 年度の取組】

放射線診断専門医 4 名、専攻医 2 名の体制で業務を行いました。MRI では 3 月に 2 台の 1.5T 装置のうちの 1 台を 3T 装置に更新しました。PET-CT では認知症治療薬承認に伴い、その適応判断のためのアミロイド PET を 2 月より開始しました。

放射線治療科

部長 栗林 徹

【診療科の紹介】

放射線治療科では、御依頼元の先生と連絡を密にとり、院内では各診療科と連携のもとで悪性腫瘍の放射線治療やケロイドの手術後照射を行っています。現場では、医師、放射線治療専任技師、看護師でのチーム医療を行っています。また、通常の放射線治療に加えて、脳及び肺の定位放射線治療（ピンポイントの放射線治療）や前立腺癌・脳腫瘍・頭頸部癌等の強度変調放射線治療（IMRT）等の高精度放射線治療を施行しています。

【令和 5 年度の取組】

放射線治療科では、令和 3 年 8 月から新しい放射線治療装置が稼働を開始し、従来よりもさらに高精度な低侵襲、時間短縮、全身への影響が少ない治療が可能になりました。また、令和 5 年度に入り高精度放射線治療の適応をこれまで以上に拡大しています。

放射線診断科・放射線治療科業務状況

全体の件数については、令和2年度から毎年増加傾向であり、新型コロナウイルス感染症流行前と比較しても増加している。各部門の件数については、以下のとおりとなりました。

X線撮影部門では、新型コロナウイルス関連検査は減少傾向でしたが、全体の検査件数は前年度比1.01とほぼ同等でありました。

カテーテル治療・IVR部門では、前年度比0.89でしたが、主な要因としては外科系のIVRの件数が、減少傾向にありました。今後は、血栓回収等幅広い治療領域の増加が予想されます。

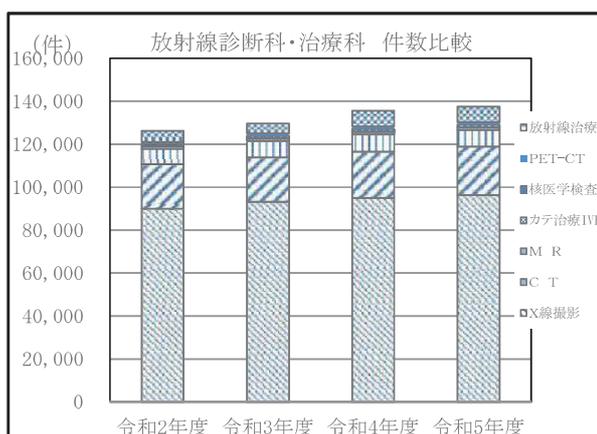
CT検査部門では、前年度比2階CT検査数1.04、救急CT検査数1.09と増加傾向にありました。3D画像処理件数は1.02と年々増加しており、診療科への迅速な画像提供に努めています。

MRI検査部門では、装置更新工事に伴い、件数が前年度比0.89と減少しました。装置1台体制の中、急性期脳梗塞をはじめとする緊急検査の即時対応や、当日施行依頼の対応を継続して実施しました。今年度更新した3.0T MRI装置は、従来の2倍の磁力を有し、解像度の向上や検査時間の短縮に貢献しています。

核医学検査部門では、一般核医学の検査件数は前年度比0.99、認知症関連の検査件数についても前年度比1.01とほぼ同等でありました。PET-CTの検査件数は、前年度比0.90とやや減少傾向でありましたが、令和5年12月に保険適用となったアルツハイマー型認知症の診断検査であるアミロイドPETを当院でも実施するようになり、今後の検査件数の増加が期待されます。

放射線治療部門では、治療件数は前年度比1.01とほぼ同等でありました。今後は、通常よりも照射回数を少なくした寡分割照射の導入や算定できる加算の見直しを行い、治療精度の向上、患者さんの負担軽減および収益の改善を目指していきます。

	件数				
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
X線撮影	89,975	93,250	95,020	96,256	1.01
C T	20,772	20,579	21,565	22,649	1.05
M R	7,245	7,592	7,978	7,783	0.98
カテーテル治療・IVR	1,126	1,202	1,236	1,094	0.89
核医学検査	1,038	1,308	1,388	1,380	0.99
P E T - C T	832	1,030	1,106	1,000	0.90
放射線治療	5,349	4,578	7,312	7,415	1.01
合計	126,337	129,539	135,605	137,577	1.01



(1) 撮影部門

検査種別	部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科
一般 単純撮影	頭部・頸部系	単純	32	0	322	0	0	284	4	13
	胸部系	単純	17,993	172	1,426	5,355	985	366	1,175	113
	腹部系	単純	2,037	131	280	2,532	33	129	27	0
	椎体系	単純	317	1	79	8	0	42	6,535	4
	胸郭系	単純	237	0	7	1	0	2	1,531	2
	骨盤系	単純	95	1	5	3	0	2	4,458	0
	上肢系	単純	906	0	143	9	0	0	5,547	2
	下肢系	単純	1,142	9	10	6	0	2	4,710	23
	歯科	単純	0	0	1	0	0	0	0	0
その他	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般単純撮影合計			22,759	314	2,273	7,914	1,018	827	23,987	157
ポータブル	頭・頸部系(P)	単純	0	0	0	0	0	9	0	0
	胸部系(P)	単純	4,888	93	793	1,027	206	341	86	5
	腹部系(P)	単純	856	34	20	710	2	36	5	1
	椎体系(P)	単純	8	0	0	1	0	2	30	0
	胸郭系(P)	単純	13	1	0	0	0	0	30	0
	骨盤系(P)	単純	1	2	1	0	1	0	56	0
	上肢系(P)	単純	3	0	4	0	0	1	5	0
	下肢系(P)	単純	13	4	5	0	0	0	38	3
	その他(P)	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
ポータブル合計			5,782	134	823	1,738	209	389	250	9
手術室 ポータブル	頭部・頸部系(O)	単純	0	0	0	0	0	0	0	0
	胸部系(O)	単純	3	0	0	200	31	10	19	3
	腹部系(O)	単純	4	0	0	344	0	0	1	0
	椎体系(整形)(O)	単純	0	0	0	0	0	4	491	0
	軀幹系(整形)(O)	単純	0	0	0	0	0	0	334	0
	上肢系(整形)(O)	単純	0	0	0	0	0	0	265	0
	下肢系(整形)(O)	単純	0	0	0	0	0	0	231	0
手術室ポータブル合計			7	0	0	544	31	14	1,341	3
乳房撮影			0	0	0	1,204	0	0	0	0
一般造影	婦人科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	泌尿器科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	外科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	耳鼻科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	整形外科系	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
一般造影合計			0	0	0	0	0	0	0	0
透視検査	上部消化管	造影	5	0	0	52	0	0	0	0
	下部消化管	造影	7	0	1	0	0	0	0	0
	消化管その他	造影	35	0	0	86	0	0	0	0
	肝・胆道・膵臓	造影	41	0	0	39	0	0	0	0
	腎臓	造影	0	0	0	2	0	0	0	0
	尿管	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	膀胱、尿道、その他	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	婦人科	造影	0	0	0	0	0	0	0	0
	脊椎、椎体	造影	0	0	0	0	0	0	315	0
	整形系その他	造影	0	0	0	0	0	0	13	0
	小児科	造影	0	0	30	0	0	0	0	0
	その他	造影	14	0	0	7	0	1	6	0
	透視検査合計			102	0	31	186	0	1	334
透視下 内視鏡	呼吸器系	単純	131	0	0	9	0	0	0	0
	上部消化管系	単純	15	0	0	0	0	0	0	0
	下部消化管系	単純	8	0	0	2	0	0	0	0
	肝臓・胆嚢・膵臓系	造影	198	0	0	21	0	0	0	0
	小腸系	造影	3	0	0	0	0	0	0	0
透視下内視鏡合計			355	0	0	32	0	0	0	0
骨塩定量			220	0	11	168	0	0	488	0
結石破砕			0	0	0	0	0	0	0	0
救急室 単純撮影	頭部・頸部系(ER)	単純	49	0	22	0	0	2	2	6
	胸部系(ER)	単純	1,836	6	735	90	2	13	30	3
	腹部系(ER)	単純	664	5	257	49	0	1	7	2
	椎体系(ER)	単純	11	0	1	1	0	1	33	1
	胸郭系(ER)	単純	15	0	4	1	0	0	62	1
	骨盤系(ER)	単純	10	0	0	1	0	0	25	0
	上肢系(ER)	単純	4	0	5	4	0	0	134	1
下肢系(ER)	単純	17	0	5	0	0	0	104	0	
救急室単純撮影合計			2,606	11	1,029	146	2	17	397	14
合計			31,831	459	4,167	11,932	1,260	1,248	26,797	183

皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計 (件数)
0	0	0	0	113	0	74	0	1	0	0	843
228	1,331	790	32	567	12	129	1	92	1	1,141	31,909
3	1,926	42	0	9	1	7	0	8	0	0	7,165
2	0	0	0	0	1	0	1	7	0	0	6,997
0	3	0	0	0	0	0	0	18	0	0	1,801
0	4	109	0	1	0	2	0	9	0	0	4,689
29	0	0	0	2	0	0	0	24	0	0	6,662
18	0	0	0	6	0	0	2	22	0	0	5,950
0	0	0	0	1	0	3,376	0	2	0	0	3,380
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
280	3,264	941	32	699	14	3,588	4	183	1	1,141	69,396
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
46	211	126	0	87	1	13	2	457	61	0	8,443
5	154	15	0	22	0	0	1	26	6	0	1,893
1	0	0	0	1	0	0	0	4	0	0	47
0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	47
0	0	0	0	2	0	0	0	8	0	0	71
0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	16
1	2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	70
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
53	369	141	0	112	1	13	3	503	67	0	10,596
0	1	0	0	4	0	11	0	0	0	0	16
1	10	3	0	11	0	1	0	4	6	0	302
0	293	325	0	4	0	0	0	3	3	0	977
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	495
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	335
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	266
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	232
1	304	328	0	19	0	12	0	9	10	0	2,623
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	870	2,074
0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	14	1	0	430	0	0	95	597
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	122
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80
0	188	0	0	0	0	0	0	0	0	0	190
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	142	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	315
0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	14
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	30
0	331	0	0	16	1	0	430	2	0	95	1,529
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	140
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	222
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	391
4	0	20	1	1	28	0	0	0	0	73	1,014
0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39
0	0	0	0	1	0	0	0	15	0	0	97
10	12	16	0	10	2	0	0	2,381	0	0	5,146
3	8	6	0	0	0	0	0	193	0	0	1,195
0	0	1	0	0	0	0	0	155	0	0	204
1	0	0	0	0	0	0	0	250	0	0	334
0	0	0	0	0	0	0	0	275	0	0	311
0	0	0	4	0	0	0	0	450	0	0	602
0	0	0	0	0	0	0	0	575	0	0	701
14	20	23	4	11	2	0	0	4,294	0	0	8,590
352	4,327	1,457	37	858	49	3,613	437	4,992	78	2,179	96,256

(2) CT部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	1,182	80	13	13	5	1,171	14	37	11
	造影	6	0	1	2	0	0	0	0	0
	単純+造影	4	0	0	0	0	0	0	0	0
頸部系CT	単純	11	0	0	0	0	1	0	2	0
	造影	0	0	7	0	0	0	1	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	1	0	0
胸部系CT	単純	2,551	1	10	821	137	10	19	3	36
	造影	1,271	2	9	645	34	7	10	1	33
	単純+造影	749	1	0	885	6	0	3	0	0
腹部系CT	単純	185	1	2	140	0	3	7	1	1
	造影	145	1	9	73	0	1	1	0	1
	単純+造影	476	0	1	60	0	1	1	0	4
骨盤系CT	単純	5	0	0	2	0	1	145	2	0
	造影	0	0	1	0	0	3	0	0	2
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四肢系CT	単純	6	0	0	0	0	0	607	3	3
	造影	1	0	0	0	0	0	0	2	2
	単純+造影	1	0	0	0	0	0	1	0	2
脊椎系CT	単純	4	0	1	0	0	3	466	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血管系CT	単純	5	0	0	66	3	0	0	0	0
	造影	153	8	0	157	6	7	16	3	5
	単純+造影	173	0	0	6	15	116	7	0	1
その他のCT	単純	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
術前胸部CT	単純	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	単純	3,950	82	26	1,042	145	1,189	1,258	47	51
	造影	1,576	11	27	877	40	18	29	7	43
	単純+造影	1,403	1	1	951	21	117	13	0	7
合計	6,929	94	54	2,870	206	1,324	1,300	54	101	

救急室CT

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系CT	単純	544	9	77	17	3	55	13	5	5
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
頸部系CT	単純	9	0	0	0	0	0	0	0	0
	造影	7	0	3	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	8	0	1	0	0	0	0	0	0
胸部系CT	単純	314	1	2	6	0	3	6	0	2
	造影	29	0	1	3	0	0	0	0	0
	単純+造影	108	0	0	10	0	0	1	0	0
腹部系CT	単純	195	1	6	5	0	0	1	0	1
	造影	60	0	16	4	0	0	0	0	0
	単純+造影	347	3	9	16	1	0	2	3	2
脊椎系CT	単純	1	0	0	0	0	0	5	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四肢系CT	単純	4	0	1	0	0	0	20	0	0
	造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	単純+造影	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血管系CT	単純	51	0	0	8	0	0	1	0	0
	造影	44	1	0	2	0	2	1	0	0
	単純+造影	101	2	2	2	0	2	2	0	0
全身系CT	単純	13	0	0	1	0	1	0	0	0
	造影	43	1	0	2	0	0	0	0	0
	単純+造影	1,168	13	88	30	3	60	45	5	8
小計	単純	1,168	13	88	30	3	60	45	5	8
	造影	160	0	20	16	0	1	1	0	0
	単純+造影	560	5	10	30	1	2	4	3	2
合計	1,878	18	118	76	4	63	50	8	10	

CT+救急室CT	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
合計	8,807	112	172	2,946	210	1,387	1,350	62	111

(3) MRI部門

部位分類	集計区分	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部系	単純	1,564	106	180	18	29	430	2	2	11
	造影	501	0	1	79	0	528	1	0	6
顔面・頸部系	単純	9	0	3	0	0	1	3	7	8
	造影	13	0	0	0	0	1	1	1	3
胸部系	単純	11	0	1	5	0	0	2	11	5
	造影	22	0	0	35	0	0	0	0	0
腹部系	単純	895	0	11	85	0	0	0	1	3
	造影	89	0	0	26	0	0	0	0	2
骨盤系	単純	22	0	2	5	0	0	3	12	5
	造影	10	0	0	7	0	0	0	0	2
上肢系	単純	9	0	3	0	0	0	248	2	12
	造影	6	0	0	0	0	0	2	1	4
下肢系	単純	30	0	3	2	0	0	183	13	19
	造影	4	0	0	0	0	0	0	1	4
脊椎系	単純	436	0	10	7	1	1	832	0	1
	造影	13	0	0	1	0	7	6	0	0
血管系	単純	9	0	1	7	0	16	1	0	0
	造影	1	0	0	1	0	0	0	0	1
小計	単純	2,985	106	214	129	30	448	1,274	48	64
	造影	659	0	1	149	0	536	10	6	22
合計	3,644	106	215	278	30	984	1,284	54	86	

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体检	合計(件数)
11	2	17	179	7	0	0	144	0	99	2,985
0	0	2	2	0	0	0	1	0	0	14
0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	6
0	0	0	38	0	0	0	7	0	1	60
0	0	0	16	0	0	0	4	0	0	28
0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	5
350	42	0	81	65	0	0	4	3	6	4,139
620	242	0	334	8	0	0	1	0	2	3,219
149	7	1	7	12	0	0	0	0	2	1,822
149	4	0	0	20	0	0	0	0	2	514
41	17	0	0	3	0	0	0	0	6	299
141	1	0	0	6	0	0	0	0	3	792
0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	157
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9
0	0	0	1	0	0	0	0	0	8	628
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	475
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74
14	9	0	0	1	0	0	0	0	1	380
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	319
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
511	49	17	299	92	0	0	155	3	117	9,033
675	271	2	352	12	0	0	6	0	9	3,955
290	16	1	9	18	0	0	4	0	7	2,859
1,476	336	20	680	122	0	0	165	3	133	15,847

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体检	合計(件数)
5	5	2	9	0	1	3	2,278	1	0	3,032
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	2	0	0	0	19	0	0	30
0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	12
0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	11
4	1	0	1	1	0	0	813	0	0	1,154
0	0	0	0	0	0	0	26	0	0	59
1	2	0	0	0	0	0	66	0	0	188
3	0	0	0	0	0	0	229	0	0	441
0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	111
2	2	0	0	1	0	0	194	0	0	582
0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	16
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	1	0	0	82	0	0	108
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	2	0	0	0	0	0	35	0	0	98
0	0	0	0	0	0	0	98	0	0	148
0	0	0	0	0	0	0	508	0	0	617
0	0	0	0	0	0	0	94	0	0	109
0	0	0	1	0	0	0	39	0	0	86
12	6	2	12	2	1	3	3,939	1	0	5,398
1	2	0	0	0	0	0	188	0	0	389
3	4	0	2	1	0	0	398	0	0	1,015
16	12	2	14	3	1	3	4,525	1	0	6,892

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体检	合計(件数)
1,492	348	22	674	125	1	3	4,690	4	133	22,619

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体检	合計(件数)
3	0	19	76	23	0	0	138	0	0	2,601
3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1,122
0	0	5	40	0	5	0	0	0	0	81
0	0	2	38	0	5	0	0	0	0	67
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35
0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	63
24	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1,024
12	0	0	1	0	0	0	0	0	0	130
136	230	0	0	3	0	0	0	0	0	418
128	68	0	0	0	0	0	0	0	0	215
0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	296
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
1	0	0	0	27	0	0	4	0	0	282
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
5	0	0	0	41	0	0	29	0	0	1,363
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
169	230	24	116	121	5	0	171	0	0	6,134
143	68	2	39	9	5	0	0	0	0	1,649
312	298	26	135	130	10	0	171	0	0	7,783

(4) 核医学部門

部位分類	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
脳	406	28	0	0	0	19	0	0	0
唾液腺	1	0	0	0	0	0	0	0	0
甲状腺	8	0	1	0	0	0	0	0	0
副甲状腺	14	0	0	0	0	0	0	0	0
肺	8	0	0	2	0	0	0	0	0
肝・胆道	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脾臓	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器	58	1	0	0	3	0	0	0	0
血流動態	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎	0	0	10	0	0	0	0	0	0
副腎	3	0	0	0	0	0	0	0	0
消化管	2	0	0	0	0	0	0	0	0
骨	166	0	0	380	0	0	0	0	0
腫瘍	4	0	1	0	0	0	0	0	0
骨髄	0	0	0	0	0	0	1	0	0
リンパ	0	0	0	47	0	0	0	0	1
神経内分泌腫瘍	8	0	0	0	0	0	0	0	0
RI内用療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	678	29	12	429	3	19	1	0	1

PET-CT

部位分類	内科	精神科	小児科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	整形外科	形成外科	皮膚科
頭部-骨盤	201	0	0	78	0	4	0	0	7
全身	261	0	0	6	0	0	2	0	8
血管炎	5	0	0	0	0	0	0	0	0
心サルコイドーシス	4	0	0	0	0	0	0	0	0
自費検査	2	0	0	0	0	0	0	0	0
井田病院人間ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アミロイド	10	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	481	0	0	84	0	4	2	0	15

(5) カテーテル治療・IVR部門

	内科	外科	心外科	脳外科	放射線科	その他	合計
心臓系	心臓カテーテル検査	228	0	1	0	0	229
	冠動脈経カテーテル形成術(PCI)	189	0	0	0	0	189
	ペースメーカー	4	0	40	0	0	44
	経皮的カテーテル心臓焼灼術	39	0	0	0	0	39
	その他	0	0	7	0	0	7
	心臓系 小計	458	0	48	0	0	506
頸頭部・一般血管	頸頭部血管診断	0	0	0	165	0	165
	頸頭部血管IVR	0	0	0	47	0	47
	頸頭部血管 小計	0	0	0	152	0	152
	胸腹部診断	0	0	0	0	12	12
	四肢・血管系診断	0	0	0	0	16	16
	一般血管診断 小計	0	0	0	0	28	28
	胸腹部IVR	0	8	0	0	61	69
	四肢・血管系IVR	0	188	0	0	2	190
	一般血管IVR 小計	0	196	0	0	63	259
	血管以外の検査・治療	0	0	0	0	70	70
その他	0	0	0	22	57	79	
合計	458	196	48	174	218	1,094	

(6) 画像データ・フィルム画像の入出力件数

	入出力デバイス名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
入 力	フィルム	54	60	38	0.76
	CD(医事課)	5,533	6,539	7,489	1.15
	入力合計	5,587	6,599	7,527	1.14
	出力	107	174	176	1.01
出 力	CD-R	3,144	3,197	3,187	1.00
	DVD	812	862	1,037	1.20
	出力合計	4,063	4,233	4,400	1.04
	総合計	9,650	10,822	11,927	1.10

(7) CT画像処理件数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
3D画像	1,371	1,297	1,315	1.01
心臓解析	170	133	150	1.13
デンタル解析	86	127	122	0.96
合計	1,627	1,557	1,587	1.02

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	放射線科	歯科口腔外科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	153
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	11
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
178	0	0	0	11	0	0	0	0	0	735
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
194	0	0	2	11	1	0	0	0	0	1,380

泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	放射線科	リハビリ	救急科	麻酔科	体検	合計(件数)
7	4	0	105	0	168	0	0	0	0	574
0	0	0	1	0	120	0	0	0	0	398
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	5
0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	6
0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
7	4	0	106	0	293	0	0	0	0	1,000

(8) 放射線治療部門

リニアック部位件数

部位	件数
脳	679
眼窩	10
副鼻腔	43
口腔・舌	4
頸部	1,215
その他	49
肺	507
食道	135
乳房	1,328
鎖骨部	285
腋窩・胸壁	247
その他	47
縦隔	231
腹部	193
その他	10
全骨盤	156
小骨盤	1,255
鼠径・臀・外陰部	58
その他	122
上肢(軟部)	0
下肢(軟部)	89
その他	0
頭部骨	31
胸部骨	5
腹部・骨盤部骨	91
脊椎	267
上肢骨	10
下肢骨	17
その他	0
上肢関節	0
下肢関節	0
全身	0
リハビリ	317
その他	14
合計	7,415

治療計画CT件数

		外来	入院	合計
頭部	単純	66	45	111
	単+造影	0	2	2
	頭部集計	66	47	113
副鼻腔	単純	1	0	1
	副鼻腔集計	1	0	1
	頸部	単純	32	7
造影		0	0	0
単+造影		5	0	5
頸部集計	37	7	44	
肺・縦隔	単純	40	18	58
	単+造影	0	0	0
	肺・縦隔集計	40	18	58
乳房	単純	55	0	55
	乳房集計	55	0	55
	上腹部	単純	5	10
上腹部集計		5	10	15
下腹部		単純	3	1
	下腹部集計	3	1	4
	骨盤腔	単純	60	11
骨盤腔集計		60	11	71
股関節		単純	1	0
	股関節集計	1	0	1
	頭椎	単純	2	3
頸椎集計		2	3	5
胸椎		単純	3	3
	胸椎集計	3	3	6
	腰椎	単純	5	6
腰椎集計		5	6	11
上肢		単純	1	0
	上肢集計	1	0	1
	下肢	単純	3	3
下肢集計		3	3	6
その他		単純	0	0
	その他集計	0	0	0
	小計	単純	274	104
造影		0	0	0
単+造影		5	2	7
総合計	279	106	385	

リニアック特殊放射線治療件数

区分	件数
強度変調放射線治療(頭頸部)	974
強度変調放射線治療(前立腺)	1,293
画像誘導放射線治療(IGRT)	3,189
脳定位放射線治療	54
肺定位放射線治療	9
合計	5,619

放射線治療管理料件数

区分	件数
1門照射・対向2門照射	36
非対向2門・3門照射	18
4門照射以上	133
強度変調放射線治療(IMRT)	49
放射線治療専任加算	186
合計	422

定位放射線治療実施回数

区分	回数
脳定位放射線治療	392
肺定位放射線治療	49
合計	441

(9) 使用造影剤

造影剤	規格	令和4年度	令和5年度	前年度比
ガストログラフィン	100ml	155	154	0.99
バリテスターA240散	350g	180	180	1.00
ボースデル	250ml	835	900	1.08
EOB・プリモビスト注シリンジ	10ml	80	90	1.13
イオパミロン注150	50ml	15	295	19.67
イオパミロン注300	50ml	115	75	0.65
	100ml	83	72	0.87
イオパミロン注300シリンジ	50ml	15	20	1.33
	100ml	1,565	1,475	0.94
イオパミロン注370	50ml	30	60	2.00
	100ml	450	790	1.76
イオパミロン注370シリンジ	100ml	880	745	0.85
イオパミドール注300シリンジ	100ml	2,135	2,200	1.03
イオパミドール注370シリンジ	100ml	465	565	1.22
イオパミドール注370	20ml	290	310	1.07
	50ml	35	20	0.57
	100ml	335	70	0.21
イオメロン300注	50ml	460	360	0.78
	100ml	420	295	0.70
オムニパーク140注	50ml	10	0	
オムニパーク300注	10ml	311	415	1.33
オムニパーク300注シリンジ	80ml	775	880	1.14
	100ml	2,010	2,095	1.04
	150ml	205	200	0.98
ウログラフィン注	20ml	891	458	0.51
ガドピスト静注1.0ml/Lシリンジ	7.5ml	320	420	1.31
プロハンス静注シリンジ	13ml	644	521	0.81
マグネスコープ静注33%シリンジ	15ml	455	335	0.74
リピオドール480注	10ml	53	35	0.66
リゾビスト注 44.6mg Fe	1.6ml	1	2	2.00
ガドテリドール静注シリンジ	13ml	360	330	0.92
エネマスター注腸散	98.1%	20	4	0.20
ビジパーク270注	20ml	140	140	1.00

(10) 放射性医薬品

	令和4年度	令和5年度	前年度比
	入荷量 (MBq)	入荷量 (MBq)	
99Mo-99mTcジェネレータ	26,937	0	
81Rb-81mKrジェネレータ	0	0	
99mTc-pertechnetate	39,590	30,710	0.78
99mTc-HSA-D	740	1,480	2.00
99mTc-ECD	159,000	175,200	1.10
99mTc-MAG3	1,332	1,488	1.12
99mTc-MDP	340,400	321,160	0.94
99mTc-HMDP	202,020	222,740	1.10
99mTc-MIBI	2,220	5,920	2.67
99mTc-tetrofosmin	58,016	49,432	0.85
99mTc-テクネゾール	3,700	1,480	0.40
201TlCl	703	555	0.79
67Ga-citrate	444	518	1.17
123I-MIBG	555	1,110	2.00
123I-BMIPP	111	111	1.00
123I-capsule	0	0	
123I-IMP	0	2,702	
123I-ioflupane	27,722	24,883	0.90
131I-adosterol	74	111	1.50
111InCl	74	148	2.00
111In-DTPA	0	0	
111In-Pentetoreotide	366	976	2.67
223Ra-xofigo	74	49	0.67
18F-FDG	167,610	150,590	0.90
18F-Flutemetamol	0	1,850	

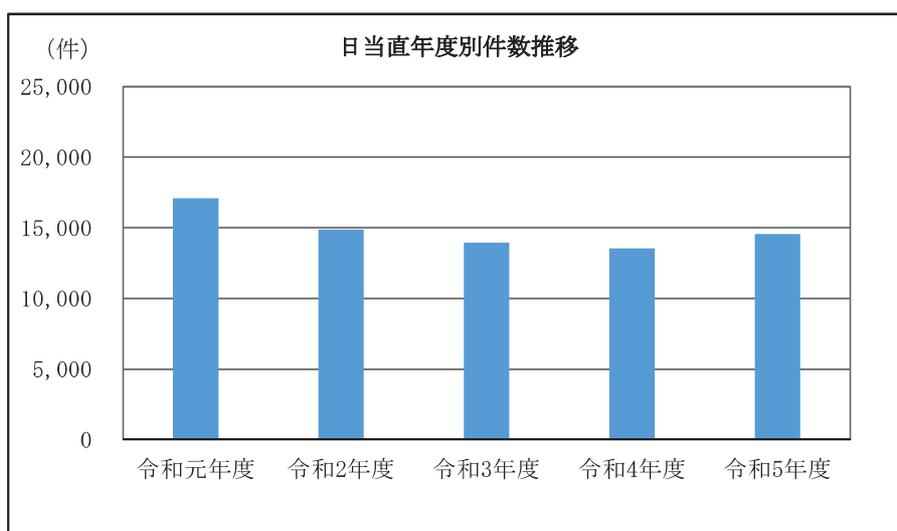
(11) 日当直状況

ア 月別日当直件数

	令和5年度 (件)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	当直	土日祝日勤	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	
4月	770	333	1,347	963	1,224	1,191	1,103	0.93
5月	884	490	1,656	1,291	1,370	1,240	1,374	1.11
6月	791	293	1,311	1,014	1,092	1,074	1,084	1.01
7月	897	406	1,413	1,244	1,286	1,220	1,303	1.07
8月	834	329	1,359	1,408	1,174	1,094	1,163	1.06
9月	787	392	1,381	1,331	998	1,062	1,179	1.11
10月	832	408	1,365	1,151	1,184	1,071	1,240	1.16
11月	822	393	1,375	1,262	1,169	1,121	1,215	1.08
12月	864	429	1,612	1,460	1,208	1,305	1,293	0.99
1月	816	535	1,678	1,431	1,273	1,260	1,351	1.07
2月	722	380	1,362	1,232	986	940	1,102	1.17
3月	774	372	1,233	1,078	995	978	1,146	1.17
合計	9,793	4,760	17,092	14,865	13,959	13,556	14,553	1.07
月平均	816.1	396.7	1,424.3	1,238.8	1,163.3	1,129.7	1,212.8	1.07
一日平均	26.8	37.8						

イ 日当直業務内容別件数

業務項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	前年度比
	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	合計(件)	
1) 単純撮影	7,771	5,701	5,439	4,857	6,067	1.25
2) 回診撮影	3,855	3,888	3,583	3,560	2,870	0.81
3) 透視撮影	192	108	106	35	92	2.63
4) カテ治療・IVR	145	163	146	66	95	1.44
5) CT検査	5,054	4,938	4,595	4,960	5,293	1.07
5) MR検査	75	67	90	78	136	1.74
	17,092	14,865	13,959	13,556	14,553	1.07



22 麻酔科及びMEセンター

部長 森田 慶久

(1) 麻酔科

【診療科の紹介】

当院麻酔科は安全で質の高い医療と地域への貢献を目指して診療に励んでいます。

当院では年間 7,412 例の多様な入院手術、放射線検査・治療を中央手術室で行っており、うち 4,687 例が麻酔科管理です。(令和 5 年度)

【令和 5 年度の取組】

各部署との連携を密にとり、通常診療と新型コロナウイルス感染症対策の両立を図りつつ、手術室運営ならびに集中治療室管理を行うことができました。産婦人科医師ならびに産科病棟スタッフと連携して、無痛分娩の提供を開始しました。

分類・年度	診療科	一般外科	心臓外科	形成外科	放射線科	精神科	脳外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産科・婦人科	眼科	耳鼻科	歯科口腔外科	循環器科	麻酔科	救急科	計
麻酔科管理	1	1,094	80	96	38	202	87	1,126	10	588	953	4	287	70	1	0	0	4,636
	2	1,083	4	71	2	266	124	1,089	37	535	801	5	207	68	0	0	0	4,292
	3	1,011	5	81	7	296	152	1,079	37	583	782	2	228	64	0	0	0	4,377
	4	960	27	111	7	402	188	1,077	32	594	730	6	248	65	0	0	0	4,522
	5	933	34	92	1	431	158	1,130	24	651	792	29	258	64	0	0	0	4,687

(2) MEセンター

医療機器が多用される最近の医療現場では、医師や看護師のみでは効率的かつ安全な医療の遂行が難しくなり、医学的な知識のみならず工学的な知識と技術を持つ専門家として、昭和 63 年に誕生したのが臨床工学技士です。臨床工学技士は医療技術者の一つで、厚生労働大臣の免許を受けて「医師の指示の下に呼吸、循環、代謝に関わる生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことを業とする」(臨床工学技士法第 2 条)とされています。

業務体制としては、手術室部門・人工呼吸器部門・血液浄化部門・心臓カテーテル部門・ペースメーカー部門・ME 機器部門など多岐に分かれます。

ア 臨床業務実績

業務内容	項目	令和4年度	令和5年度
血液浄化	CHDF	82	46
	PMX-DHP	0	0
	PE	17	10
	出張 HD	19	48
透析室	HD	970	835
	HDF	522	211
	CART	43	34
人工呼吸器	人工呼吸器ラウンド	1,723	3852
	RST 総合ラウンド	232	385
	回路交換	5	5
カテーテル業務	CAG	245	225
	PCI	158	186
	緊急カテ	55	51
	IVUS	151	179
	FFR	48	33
	Rotabrator	12	20
	テンポラリーPM 挿入	19	9
	IABP	3	6
	アブレーション	37	39
ペースメーカー業務	新規植込	28	36
	電池交換	24	9
	植込1週間後チェック	26	35
	緊急チェック	11	5
	術中管理	14	10
	外来	427	481
体外循環	人工心肺	15	25
	PCPS (管理日数)	8(13)	18(45)
	ECMO	1	0
オペ室業務	セルセーバー	105	105
	オペ室対応	231	183
	da vinci 業務	97	103
	脳神経外科ナビゲーション	45	43
病棟	病棟対応	6	20

イ 機器管理業務実績

	項目	令和4年度	令和5年度
点検	輸液ポンプ	980	1,035
	シリンジポンプ	601	589
	除細動器	95	192
	自動体外式除細動器	80	108
	閉鎖式保育器	220	157
	PCAポンプ	11	50
	人工呼吸器	730	770
	人工心肺	2	2
	PCPS	8	8
	テンポラリーPM	274	243
	麻酔器	2,430	2,430
	血液ガス装置	480	486
	電気メス	2,152	2,239
	ハーモニック	130	146
	サンダービート	167	158
	高周波メス	29	21
	内視鏡	1,223	1,099
	ソノサージ	3	1
	医療用レーザー	111	79
	手術支援システム	97	103
	離床センサー	0	0
	経腸栄養ポンプ	0	0
	反復圧迫治療器	205	102
	パルスオキシメーター	200	163
	超音波ネブライザ	68	16
	ベッドサイドモニタ	473	387
送信機	53	26	
血圧計	141	98	
修理	輸液ポンプ	7	59
	シリンジポンプ	2	15
	血圧計	4	9
	反復圧迫治療器	26	40
	送信機	7	19
	ベッドサイドモニタ	4	10
	低圧持続吸引器	0	2
	経腸栄養ポンプ	0	1

23 病理診断科

部長 折笠英紀

【診療科紹介】

病理診断科は、令和元年度より正式な診療科組織として発足いたしました。業務内容は検査科病理の時代と同様で、病理組織診断、細胞診断、術中迅速診断、および病理解剖です。免疫組織化学的解析も積極的に取り入れており、常に迅速かつ精度の高い病理診断を心がけています。病理診断難解症例は、関連大学やその道の専門家の病理医等にコンサルトしています。

【令和5年度の取組】

基本的な人員構成は前年度と変わっておりません（常勤病理専門医 2 名、後期研修医 1 名）が、杉浦の定年延長終了・常勤嘱託（会計年度職員）就任に伴い、折笠が部長に就任致しました。非常勤医の構成は前年度と変わっておりません（4 名、慶應義塾大学、順天堂大学、けいゆう病院、済生会宇都宮病院）

昨今のゲノム診療の進歩に伴い、病理検体の遺伝子検査等の件数が急増しておりますが、当院では同規模の他施設同様、現在はランチラボへの外注で対応しております。微小な検体の事が多い事もあり、標本作成に細心の注意を払い検査の精度向上に取り組んでいるところです。

診療実績の推移

令和2年度では組織診の件数が落ち込みましたが、令和3年度以降は回復しつつあります。

病理診断件数（検査科に掲載されている内容とは算出方法が異なります）

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
組織診	6,318	5,339	6,031	6,407	6,663
うち術中迅速	280	237	207	252	236
細胞診	6,635	6,000	6,380	6,359	6,112
うち術中迅速	45	20	4	1	0
病理解剖	19	18	15	11	8

25 ロボット手術センター

センター長 原

智

(1) センター概要

当院では、平成 28 年 7 月から、手術支援ロボット（ダビンチ）を用いた手術を開始し、これまでに前立腺癌、腎癌、胃癌などに対して、合計で 300 件以上のロボット支援手術を行ってきました。保険適応が拡大される中で、当センターは、泌尿器科、外科、呼吸器外科、産婦人科を中心とした複数の診療科と臨床工学士が一つの部門として集約することで、万全の機器管理のもと、機能的に手術できる体制を構築し、よりハイレベルな「技術」「治療環境」「サポート体制」を提供してまいります。

【令和 5 年度ロボット手術件数】

前立腺癌；54、腎癌；24 件、膀胱癌；10 件、腎盂尿管移行部狭窄症；1 件、直腸癌；14 件

26 病態栄養治療部

部長 津村 和 大

【診療科の紹介】

臓器にとらわれることなく系統的かつ全身的に疾患・病態を理解して、栄養管理をさまざまな疾患の予防と治療の基盤とする考え方が「病態栄養治療学」です。診療科・職種・施設横断的に連携しながら正しい病態診断と栄養管理を進めることで、最適な治療提案に繋がっています。

病態栄養治療学の考え方が求められる疾患は多岐にわたります。栄養代謝・内分泌・消化器・循環器・腎臓・呼吸器など臨床各科にまたがる幅広い疾患が重複する場合も、病態栄養の総合的な判断が求められます。近年では、高齢者におけるサルコペニア・フレイルの頻度がとみに高まりました。現在は、栄養代謝疾患・内分泌疾患に対する指導や治療に重点を置いて診療を行っています。

【令和5年度の取組】

令和5年度は、適切な栄養管理を実践するための患者支援の質向上に努めるとともに、公益社団法人日本糖尿病協会（JADEC）が提供する啓発・学習資材を積極的に活用することで、手厚い栄養管理を実現しました。そのほか人材育成面では、日本病態栄養学会の専門職育成事業や JADEC が提供する e-ラーニングと連携した生涯学習を院内外の医療者への提供、神奈川糖尿病療養指導士認定機構が連携する教育セミナーの企画などを通じて、地域医療への貢献に努めました。

学術面では、年間20件以上の学会・研究会報告ならびに論文の執筆を行い、病態栄養学と関係性の深い糖尿病アドボカシーの研究を継続しています。これら成果をもとに、地域の医療機関と連携して市民啓発事業も展開しています。さらに令和7年に JADEC 年次学術集会の会長を務めることから、この準備と連携して、臨床医学に根差した糖尿病学ならびに病態栄養学を広める取り組みを進めています。

27 健康診査室

室長 津村 和 大

【診療科の紹介】

健康診査室は、がんを含めた生活習慣病・慢性疾患の増加に対応して、健康寿命の延伸に貢献するための予防医療の実践と生活習慣改善指導に対応しています。「健診」関連の主な業務は、特定健康診査・後期高齢者健康診査・入学時入社時健康診断で、「検診」関連の主な業務には、川崎市がん検診（肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、乳がん検診、子宮がん検診）・川崎市骨粗しょう症検診・川崎市肝炎ウイルス無料検査（B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査）・川崎市国民健康保険 PSA 検査があります。

【令和5年度の取組】

糖尿病・脂質異常症・高血圧などの発症予防・進展抑制に役立つ生活習慣改善の情報提供を継続しています。汎用化された教育支援資材を活用するだけでなく、病態の理解や適切な受診勧奨に繋げる資材を独自に開発することで、特定健康診査における1人ひとりのリスク評価の結果に照らして必要と判断された支援の質向上を図っています。検査結果確認と受診者教育の業務プロセスを見直した結果、待ち時間の大幅な短縮に加えて、未受診患者に対する受診勧奨と地域医療連携を効果的に進めることが可能となりました。

III 部門概要

令和5年度 看護部概況

はじめに、皆様の医療、看護に対する責任感と熱意により看護部の運営ができていることに感謝申し上げます。

前任の千島副院長兼看護部長から引き継ぎ、4月に新規採用職員75名を迎え、正規看護職員659名、会計任用看護職員46名、看護助手62名で新たな体制が始動しました。

看護部の強みは、「チームワークと団結力」「看護に熱い人が多い」ことです。看護職としての役割を自覚し、一人ひとりが、看護に誇りとやりがいを持ち、プロフェッショナルとして学び、成長し続ける看護部組織でありたいと思っています。

令和2年2月のダイヤモンドプリセス号のCOVID-19感染者の受入れから3年が経過し、令和5年5月8日には、COVID-19が「2類感染症」から「5類感染症」になりました。そして個人の選択を尊重し自主的な取り組みをベースとした対応に変わりました。苦しい戦いから共存へ移り変わっても、医療現場では、常に新たな課題に取り組んでいかなければならない状況です。

そのような渦中で、今年度は3つの戦略目標を中心に様々な取り組みを行いました。

戦略目標① チーム医療の推進（入院基本料、特定入院料の維持・DPCI期、II期内退院の増加・患者満足度の向上・多職種との連携強化）主に多職種との連携強化では、看護師長会班、主任会等で看護助手の業務内容の見直しや人材育成等に力を注ぎ効果的・効率的な協働を進める上で成果をもたらすことができました。

戦略目標② 自律した看護職員の育成（安定した看護サービスの提供・職員満足度の向上・OJT、職場の支援体制の強化・1～3年目看護職員の育成）主に3年目看護職員に自らのキャリアを考えるきっかけ作りとして初めての同期会を開催し、9割の職員のモチベーション向上に繋げることができました。

戦略目標③ 安全で安心な医療の提供（患者の不利益の回避・安全安心な療養環境の整備・実践を証明する記録の充実・安全意識の高い看護職員の育成）主にテーマとして「看護実践が見える記録」に各部署が取り組み、その成果が見られました。またアクシデント事例の共有と再発防止の取り組みを継続的にを行い、職員の安全意識向上にも繋げることができました。

その他の主な取り組みとしては3つあります。

1つ目は、再編整備による令和7年度救命・救急センター棟の設立に伴い、看護師増員要求に向けた取り組みを行い、看護師45名の増員が議会で承認されました。

2つ目は、12月に厚生労働省よりアルツハイマー病の新薬レカネマブ（レケンビ）の使用認可が降りました。当院でもその治療を開始するために、認知症ケアチームを中心に関連部署と患者の受け入れ準備、運用、教育等を行い軌道に乗せることができました。今後患者が増えることを想定し、運用を再度検討していく必要があります。

3つ目は、令和6年1月1日に能登半島地震が発生し、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災直後はDMAT隊が出動し、2月から3月にかけては市立輪島病院に支援ナースとして12名を派遣しました。派遣にあたり多くの看護師から派遣の申し出があり、その使命感と勇気を誇りに思います。派遣先での多くの学びと経験を災害対策、体制整備に活かした取り組みをしていきます。

次年度は、診療報酬改定により、新たな取り組みや課題が待ち受けています。引き続き、看護のプロフェッショナルとして共に看護に専念できるよう働きやすい職場環境、誇りとやりがいを持てる職場環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

今後もより良い川崎病院、より良い看護部の成長と発展のために尽力して参ります。

副院長兼看護部長 藤原 実香

(1) 看護職員配置数

(令和5年4月1日現在)

項目 看護単位	許可 病床数	稼動 病床数	助産師 看護師	会任 職員	夜勤人員		看護 助手
					準夜	深夜	
	713	608					
看護部配置数			638				
看護部 4月現在現在数			659				
14階北病棟 (内科・透析室)	47	36	32	0	3	3	6
14階南病棟・治療センター (内科)	51	36	36	2	3	3	4
13階北病棟 (心外・循環器内科)	51	46	32	1	4	4	4
13階南病棟 (内科)	53	48	34	0	4	4	6
12階北病棟 (泌・耳・眼・口腔)	51	46	33	0	3	3	2
12階南病棟 (脳・皮・放・リハ・耳)	53	48	33	2	4	4	6
11階北病棟・内視鏡センター (外科・消化器内科)	53	38	38	2	3	3	6
11階南病棟 (外科・肺外科・整形外科)	53	38	32	1	3	3	4
10階北病棟 (整形外科・形成外科)	53	48	31	1	3	3	4
10階南・感染症病棟 (婦人科・整形外科・泌尿器・乳腺外科・感 染症)	64	59	30	1	3	3	6
9階北病棟 (精神科)	38	36	15	4	3	2	1
9階南病棟 (EICU・救命救急病棟・小児急病センター)	20	20	62	3	15	13	2
8階北病棟 (産科・新生児)	44	42	30	2	4	4	1
8階南病棟・小児科外来	41	41	24	2	3	3	3
NICU	6	6	11	2	2	2	0
GCU・新生児外来	18	12	12	2	2	2	0
5階ICU・CCU	12	8	27	1	4	4	1
5階 手術室			41	2	2	2	0
外来			25	17	0	0	6
副院長(看護部長)室			1				
看護部管理室			7	1			0
担当課長・看護師長			1(再掲)				
看護師長			19(再掲)				
外部配置			13				
産休・育休・病休・休職・派遣研修			60				

ア 出身校別内訳

(令和6年3月31日現在)

種別	学校	看護大学	助産師校	看護短期 大学	看護専門 学校	准看学校
	人数					
総数	629人	163人	23人	164人	277人	2人
構成比(%)	100%	26%	4%	26%	44%	0%
助産師	31人	8人	23人	0人	0人	0人
構成比(%)	5%	1%	4%	0%	0%	0%
看護師	596人	155人	0人	164人	277人	0人
構成比(%)	95%	25%	0%	26%	44%	0%
准看護師	2人	0人	0人	0人	0人	2人
構成比(%)	0%	0%	0%	0%	0%	0%

イ 年齢分布

(令和6年3月31日現在) (単位：人)

年齢	助産師	看護師(准看護師含む)	計
21	0	3	3
22	0	18	18
23	1	46	47
24	3	45	48
25	1	36	37
26	2	37	39
27	4	21	25
28	1	23	24
29	2	8	10
30～34	5	89	94
35～39	3	63	66
40～44	2	49	51
45～49	1	55	56
50～54	4	69	73
55～59	2	26	28
60～	0	10	10
合計	31	598	629

ウ 平均年齢

(令和6年3月31日現在) (単位：歳)

助産師	看護師(准看護師含む)	総平均
34.3	34.8	34.6

(3) 勤続年数

【助産師:11.0年 看護師(准看護師含む): 10.3年 平均: 10.7年】

(令和6年3月31日現在)

年数	助産師	看護師 (准看護師含む)
1年未満	3人	60人
1年	4人	43人
2年	1人	42人
3年	2人	46人
4年～5年	5人	57人
6年～9年	4人	77人
10年～14年	4人	99人
15年～19年	1人	68人
20年～24年	3人	39人
25年～29年	0人	35人
30年以上	2人	31人

(4) 令和5年度看護職員採用・退職状況

採用者数	75人	助産師4名	看護師71名
退職者数	68人	助産師6名	看護師62名

2 医療安全管理室

室長 上田 誠 司
課長 甲斐 瑞 恵

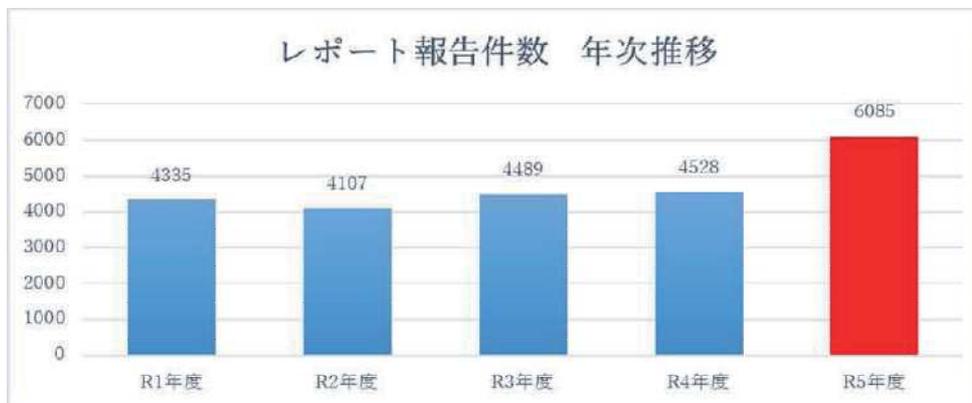
医療安全管理室は、安全な医療の提供と医療の質の向上を目的に、当院における医療安全管理体制の構築と維持ならびに組織的な医療事故防止の取り組みを推進しています。

各部署から報告されるインシデントレポート数は、前年度より大幅に増加し、年間 6,000 件を超えました。エラーを未然に防ぐための積極的な医療安全活動の実践の成果です。報告されたレポートは医療安全管理室で集計・集約し、医療安全対策に係るカンファレンスならびに医療安全関連の委員会等で検討しています。さらに、共有すべき重要な事例については、診療部、看護部、薬剤部、放射線診断科、検査科、食養科、リハビリテーション科、麻酔科（ME センター）、事務局等、各部門・各職種と連携し、改善策を検討しています。また、週 1 回、医療安全ラウンド（4 クール）を院内の各部署で実施し、各部署でのレポートに対する医療安全管理活動の取り組み状況、改善策の検討を部署とともにを行い、医療安全活動の中心となる医療安全管理部会員の活動を支援しています。組織的な課題については医療安全管理委員会との連携を基盤にし、医療安全管理に不可欠なシステム改善についてはシステム運用検討部会と連携するといったように、関係委員会との連携のもと、改善に取り組んでいます。

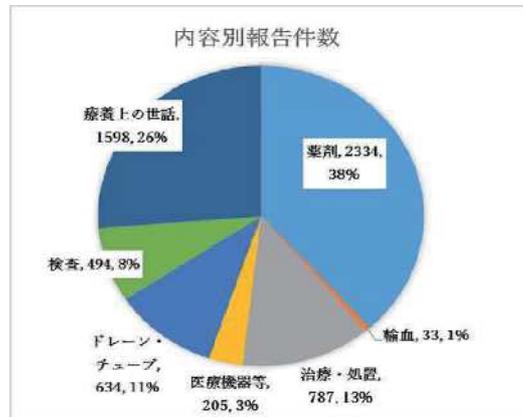
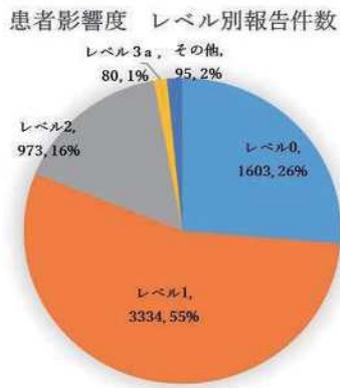
医療安全における職員教育について、令和 5 年度は、前年度に引き続き、＜当院で発生した薬剤インシデント事例＞＜医療放射線安全利用＞＜MRI の安全＞＜輸血＞＜患者・家族との対話推進＞＜臥位から移乗動作までのポイントと注意点＞＜暴力・ハラスメント対策＞＜医療チームに目を向ける＞の 8 テーマで e-ラーニングを活用した研修を企画、実施しました。その結果、延べ 1039 名（受講率 84%）の職員が受講しました。今後も、受講しやすく興味を持ち、実践に活用できる研修をめざして取り組みます。

質の高い医療提供にあたっては、患者・家族に十分な説明を行い、その意思を尊重することが不可欠であり、患者・家族の理解を確かめながら、プロセスを大切に丁寧なサービス提供に努める必要があります。この点について、当院の医療に対する疑問や不安を抱いている患者・家族に寄り添い、患者総合サポートセンターとの連携のもと、患者相談窓口の充実を目指しています。週 1 回カンファレンスを実施し、窓口における患者サービスについて検討しています。特にアドボカシー相談では、患者さんやご家族の思いをお聴きし、医療提供者との間での相互理解を深め、医療安全並びに医療サービスの向上をはかるため、対話を推進する支援を実施しています。

(1) 令和 5 年度インシデントレポート報告件数ならびに年次比較 w



(2) 令和5年度<影響レベル別><内容別>インシデントレポート報告件数



(3) 主な改善項目

項目	目的 改善内容
医療安全ラウンド・インシデント報告を基に現場への支援（確認行為・エラー対処行動推進）	医療安全ラウンドにて<環境><転倒><内服薬><アナフィラキシー対応>のテーマを基に現状を踏まえた対策の確認を行った。また、インシデントレポート報告をもとに<術前中止薬><ゼロレポートの意義><転倒転落注意><アレルギー入力注意><患者誤認注意><家族案内誤認><インシュリン詩人の理解><医療機器モニターの取り扱い>について医療安全管理ニュースを発行し注意喚起を発信した。
医療安全研修参加の支援	医療安全に必要な知識の向上のため8つのテーマを設定し、eラーニングシステムによる研修を実施。1039名受講（受講率84%）
医療安全管理マニュアル整備	医療事故防止対策としてインシデントレポート報告を踏まえ、医療安全管理マニュアルを改訂（第8版）した。<気管切開—気管カニューレの計画外抜去の対処について><酸素ボンベ早見表>項目を修正・追加した。
安全文化の醸成	医療安全文化醸成につながる集合研修について検討し、「Im SAFER」「TeamSTEPPS」の研修を企画・実施した。看護部医療安全感染管理委員会と連携し、アクシデント事例について、「Im SAFER」分析を実施し、分析結果を医療安全管理部会で共有した。「Im SAFER」46名、「TeamSTEPPS」研修は4回実施、128名受講。
転倒転落対策	アクシデント事例毎に要因分析、再発防止策を明確化した。医療医療安全ラウンドにて事例の傾向と部署の課題を共有し、医療安全管理マニュアルの対策周知と実践を推進した。

3 感染対策室

室 長 坂 本 光 男
課 長 井 原 正 人

感染対策室は平成20年に設立され、感染症内科医師、感染管理認定看護師2名、薬剤師、臨床検査技師、庶務課職員6名で構成されている。

各部門から選出された構成員が一丸となり医療関連感染の発生状況を把握し感染率低減に向け取り組んでいる。感染制御チーム（ICT）、抗菌薬使用適正チーム（AST）は週1回の院内ラウンド及びカンファレンスを行い感染対策や各種検査、抗菌薬に関して介入・指導・助言を行っている。

また川崎市内で唯一の第2種感染症指定医療機関であり、令和2年2月6日よりダイヤモンドプリンセス号からの受け入れを早々に実施。コロナ診療における適切な療養環境の整備、関わる医療従事者への教育に取り組んでいる。

1. 院内研修

月	実施対象	テーマ	参加人数
4月	新採用者 (医師・専修医)	医師採用時オリエンテーション 感染対策について	46名
4月	新採用者 (看護師)	新規入職者研修 感染管理について	76名
4月	新採用者 (研修医)	初期研修医オリエンテーション 感染対策について・検体採取について	15名
4月	新任師長	師長研修 感染管理について	5名
6月	新採用者 (看護師)	新規入職者研修 医療関連感染を防止するために	70名
6月	川崎市看護 協会(会員)	未就業看護師復帰支援研修 感染対策の基礎 新型コロナウイルス感染症	18名
7月 9月	外来看護師	検体採取について	39名
7月	看護助手	看護助手研修 エプロン・手袋の着脱方法	55名
7月	川崎市看護 協会(会員)	訪問看護師養成講座 在宅医療における感染対策 在宅医療と洗浄・消毒	21名
9月	福祉施設、 事業所職員	福祉職員向け現任研修「感染対策」 介護現場における～with コロナ時代の感染対策の 基本～	18名

9月	13S 看護師	抗酸菌検査について	13名
10月	8W 看護師	手指衛生で赤ちゃんを守ろう	10名
10月 11月	9S 看護師	アルコール手指消毒で私も患者も守ろう！	24名
10月	当院保育士	保育士研修 知っておこう！おう吐物の拡散	10名
11月	川崎市看護協会(会員)	訪問看護師養成講座 在宅医療における感染対策 在宅医療と洗浄・消毒	15名
11月	川崎市内福祉施設関係者等	福祉職員向け医療研修 今日からできる！地域で取り組む感染対策	16名
12月 ～3月	全職員	<個別学習研修> テーマ1「正しい検体採取について」 テーマ2「AMRアクションプラン2023-2027」 テーマ3「カテーテル関連尿路感染予防について」 テーマ4「外来における抗菌薬処方について」 テーマ5「TDMとは～よく使用される薬剤を中心に～」 テーマ6「血液培養検査の重要性」 テーマ7「薬剤耐性菌について」	797名 431名 638名 451名 367名 602名 374名
12月	あおいの苑 川崎南部	高齢者施設における感染対策	20名
3月	14N 看護師	CD 腸炎患者の感染対策	8名

2. 予防接種

予防接種の種類／件数

ワクチン種類	人数
水痘ワクチン	11
風疹ワクチン	10
ムンプスワクチン	50
麻疹ワクチン	57
MR ワクチン	46
HB s ワクチン	51人(153回接種)
インフルエンザワクチン	1,651

新型コロナワクチン接種（延べ人数）

対象	人数
院内職員 (正規及び委託職員含む)	1,856人

3. 地域との連携

感染カンファレンス

	開催日	開催場所	参加医療機関
第1回 個別カンファレンス	令和5年6月14日	当院 7F クラブ室	臨港病院 川崎区保健所
第2回 KAWASAKI 地域感染 制御協議会 定例会	令和5年9月27日	WEB 会議	臨港病院
第3回 個別カンファレンス 令和5年度患者搬送訓練	令和5年12月21日	当院 4F 会議室	臨港病院、健康 福祉局、川崎区 役所、神奈川県 船舶代理店協 会、丸武興産、 消防局警防部救 急課、相模原市 疾病対策課、川 崎検疫所支所
第4回 KAWASAKI 地域感染 制御協議会 定例会	令和6年3月8日	川崎市役所 第4庁 舎 2階ホール	協議会 会員施設 33
第1回地域連携加算	令和5年11月21日	日本鋼管病院	日本鋼管病院
第2回地域連携加算	令和5年12月22日	当院	井田病院
第1回指導加算	令和5年7月11日	総合川崎臨港病院	総合川崎臨港病院
第2回指導加算	令和6年1月19日	総合川崎臨港病院	総合川崎臨港病院
第3回指導加算	令和6年2月16日	総合川崎臨港病院	総合川崎臨港病院
第4回指導加算	令和6年3月15日	総合川崎臨港病院	総合川崎臨港病院

4. 新型コロナウイルス感染症患者受入状況

令和5年度は新型コロナウイルス感染症患者を312名受入れし、入院加療を行いました。
(令和2年2月から令和5年度までは延べ1526名)

専従看護師が高齢者施設や障害者施設、医療機関に出向き、出張出前講義を行い、施設内ラウンドや、きめ細かな感染対策の指導を行いました。

4 臨床研究支援室

室長 津村 和 大

臨床研究支援室は、質の高い臨床研究の推進と臨床現場への迅速な成果還元を目的として平成22年4月に開設され、研究実施計画のブラッシュアップ支援や研究支援セミナーの開催、臨床研究に関連した個人情報 の適正管理をはじめとした各種事業を展開してきました。治験事務局の機能も担い、治験および製造販売後調査の依頼者への対応や治験必須文書の管理・保管を行っています。そのほか、治験審査・臨床研究倫理審査委員会、臨床研究支援委員会並びに研究交流会の運営にも携わっています。

令和5年度開催の第16回研究交流会には21演題が報告されました。この中で特に優秀な演題に対しては、一層充実した研究とするための支援を継続し、第62回全国自治体病院学会における質の高い発表に繋げています。

(1) 組織

室長 1名（医師：国立研究開発法人日本医療研究開発機構プログラムオフィサー兼務）
担当部長 1名（薬剤師：薬剤部長）
担当課長 1名（事務職：庶務課長）
担当係長 3名（庶務課・医療安全管理室・薬剤部）
他兼務 2名（看護部・検査科）
臨床研究コーディネーター（CRC） 3名

(2) 令和5年度 臨床研究審査状況

新規の審査申請総数は31件。うち川崎病院の実施設とする単施設研究が12件、多機関共同研究が19件。

(3) 令和5年度 治験審査状況

新規紹介となった治験総数は43件。継続中の治験は3件。

(4) 令和5年度 職員教育

計画立案から成果を得るまでのあらゆる段階において多角的に職員を支援しました。厚生労働省や国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）が発出する最新情報を職員へ共有し、また人を対象とする医学系研究および治験に係る各種相談に迅速かつ臨機応変に対応することで、臨床研究や治験に参加する職員の負担軽減にも努めています。

5 薬剤部

部 長 小 林 加 寿 夫

薬剤部の業務は、調剤・注射薬調製、病棟薬剤関係業務、薬品管理、医薬品情報管理、製剤の5部門に大別され、その内容は次に示すとおりです。令和5年度は、入院患者数の増加及び薬剤師が5名増員されたことにより、各部門において前年度を上回る業務実績となりました。

特に顕著な業績の伸びとなったのは病棟薬剤関係業務であり、新たに5病棟で病棟薬剤業務を開始したことにより、薬剤管理指導件数は昨年度より5,577件増加し、持参薬鑑別件数も1,214件増加しました。

薬品管理部門では、抗悪性腫瘍薬、循環器用薬、生活習慣病用薬、眼・耳鼻・皮膚用薬の高額製品の使用数の増加等の影響により、薬品購入金額は前年度より約2億8千万円の増加となりました。

(1) 調剤・注射薬調製業務

アに科別、病棟別の外来・入院処方箋枚数を示しました。外来院外処方箋枚数は昨年度より958枚増加しました。一方、外来院内処方箋枚数はコロナ患者への院内処方箋が減少したことから昨年度より355枚減少しました。イに月別の外来処方箋枚数と院外処方箋発行率を示しましたが、コロナ患者への院内処方の減少に伴い院外処方箋発行率は昨年度より約1%増加しました。ウに持参薬確認件数を示しました。エに月別、病棟別T P N調製件数を示しました。T P Nの調製については、昨年度より一般病棟における調製件数は780件減少し、N I C Uの調製件数は198件増加しました。オに化学療法調製件数を示しました。昨年度より外来は267件増加、入院は118件増加しました。カに月別注射箋枚数を示しました。注射箋枚数は昨年度から、約5,448枚増加しました。

ア 診療科別外来（院外・院内）処方・病棟別入院処方年間総処方箋枚数及び1日平均処方箋枚数

診療科	外来院外処方箋枚数		外来院内処方箋枚数		病棟	入院処方箋枚数	
	年間	1日平均	年間	1日平均		年間	1日平均
内科	57,332	235.9	7,994	21.8	8 N	4,387	12.0
精神・神経科	13,514	55.6	540	1.5	8 S	4,241	11.6
小児科	11,138	45.8	2,280	6.2	8 W	895	2.4
外科	6,405	26.4	468	1.3	9 N	4,293	11.7
心臓血管外科	610	2.5	1	0.0	9 S	6,072	16.6
脳神経外科	811	3.3	37	0.1	9 W	1,202	3.3
整形外科	9,372	38.6	778	2.1	10 N	10,831	29.6
形成外科	885	3.6	112	0.3	10 S	10,211	27.9
皮膚科	8,420	34.7	350	1.0	11 N	9,415	25.7
泌尿器科	8,617	35.5	250	0.7	11 S	9,291	25.4
産婦人科	4,156	17.1	51	0.1	12 N	9,270	25.3
眼科	4,612	19.0	42	0.1	12 S	12,026	32.9
耳鼻咽喉科	2,914	12.0	27	0.1	13 N	12,241	33.4
放射線科	357	1.5	6	0.0	13 S	12,822	35.0
リハビリテーション科	18	0.1	0	0.0	14 N	10,460	28.6
口腔外科	3,985	16.4	39	0.1	14 S	12,432	34.0
救命救急センター	818	3.4	841	2.3	ICU	1,637	4.5
計	133,964	551	13,816	38	計	131,726	360

稼働日数 外来院外 243日 外来院内 366日 入院 366日

イ 令和5年度月間外来（院外・院内）処方箋枚数及び院外処方箋発行率

月別	外来処方箋枚数						院外処方箋発行率 ^(注2)			
	院外処方箋枚数	院内処方箋枚数 ^(注1)				計	計	(I)	(II)	(III)
		(A)	(B)	(C)	計					
令和5年 4月	10,596	351	275	454	1,080	11,676	90.8%	94.4%	96.8%	
5月	10,872	389	338	418	1,145	12,017	90.5%	93.7%	96.5%	
6月	11,836	342	376	471	1,189	13,025	90.9%	94.3%	97.2%	
7月	11,856	335	438	428	1,201	12,057	90.0%	93.4%	97.0%	
8月	11,229	365	329	408	1,102	12,331	91.1%	94.2%	96.9%	
9月	11,332	337	350	465	1,152	12,484	90.8%	94.3%	97.1%	
10月	11,457	367	329	452	1,148	12,605	90.9%	94.3%	96.9%	
11月	10,840	357	317	436	1,100	11,950	90.7%	94.1%	96.8%	
12月	12,004	354	396	462	1,212	13,216	90.8%	94.1%	97.1%	
令和6年 1月	10,961	315	459	403	1,177	12,138	90.3%	93.4%	97.2%	
2月	10,509	371	339	435	1,145	11,654	90.2%	93.7%	96.6%	
3月	11,473	373	299	486	1,158	12,631	90.8%	94.5%	96.9%	
計	134,965	4,256	4,245	5,318	13,809	147,784	91.3%	94.7%	97.6%	

(注1) (A) : 労災、自賠責扱い患者の処方、院内製剤、治験を含む処方、特に必要と認めた患者の処方等

(B) : 救急外来処方（主に夜間）

(C) : 検査薬、糖尿病血糖測定紙、穿刺針、消毒綿、インスリン注入器等の処方

(注2) (I) : 院内処方せん枚数に (A)、(B)、(C) を含む

(II) : 院内処方せん枚数に (A)、(B) を含む

(III) : 院内処方せん枚数に (A) を含む

ウ 令和5年度調剤室における持参薬確認件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14N	2		5	2	4	4	2						19
14S											1		1
13N	34	30	30	21	10								125
13S	19	18	20	16	23	16							112
12N	7		4	3	10	12	8	6	4	15	6	16	91
12S	39	38	46	39	23	36	11						232
11N	3	5	6	2	5	3	4	4	5	2	6	10	55
11S	42	44	63	35	4	5	6	5	8	5	5	7	229
10N				1			2			4	2		9
10S	1												1
9N	9	5	6	6	7	5	7	4	6	3	5	3	66
9S													
8N	20	33	17	17	23	13	12	9	8	17	21	11	201
8S	8	8	3	6	6	8	9	7	5	6	12	9	87
ICU	4	2	1	1				2			1	1	12
合計	188	183	201	149	115	102	61	37	36	52	59	57	1,240

エ 令和5年度病棟常駐薬剤師による病棟での持参薬確認件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
14N								10	17	24	15	15	81
14S	19	13	17	19	23	12	16	17	17	18	20	15	206
13N					30	32	30	24	21	27	26	22	212
13S					2	14	41	41	34	24	35	30	221
12N	108	112	124	127	104	120	122	99	113	102	109	108	1,348
12S								48	36	33	57	34	208
11N	42	42	45	40	33	36	45	33	32	36	45	45	472
11S					51	50	45	55	40	42	41	55	379
10N	45	59	63	65	48	48	65	56	57	64	64	67	701
10S	66	72	96	82	94	76	86	91	74	104	83	89	1,013
9S	33	36	24	36	44	34	38	42	39	43	37	33	439
9W	0	2	11	13	12	10	6	1	4	9	9	10	87
合計	313	336	380	382	441	432	494	517	484	526	541	521	5,367

オ 令和5年度月別、病棟別TPN調製件数

月別 病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8S													
9S		14	4		1	2		1	2		5		29
10N	1	8	5				9	30	15	37			105
10S													
11N	16	17	9	64	5	5	21	3	15	1	21	4	181
11S	14				4	1			11		2		32
12N			1			12	21						34
12S											10	43	53
13N					34	15		15	35	27	25	11	162
13S	4	27	17	6			1	2	5	13	4		79
14N	5	21			2		4	9	9			1	51
14S	38	41	14	20	3	5	9	5	7	12	12	20	186
ICU	21	8	5	5	10	11			3		4		67
TPN計	99	136	55	95	59	51	65	65	102	90	83	79	979
NICU	36	11	30	35	87	92	57	67	65	17	24	29	550

カ 令和5年度月別、外来（診療科・臓器別）・入院（診療科・臓器別）化学療法調製件数

月別 診療科 ・入院（臓器別）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
造血器	150	191	138	114	128	145	155	144	98	116	131	145	1,655

肺	79	88	75	74	89	84	83	87	69	61	61	57	907
食道	5	6	5	4	5	2	6	8	7	12	6	5	71
胃	12	12	12	13	18	10	15	17	17	25	15	18	184
肝・胆・膵	39	48	57	46	54	43	54	57	54	44	38	39	573
乳腺	29	27	29	38	35	25	39	36	33	32	42	25	390
大腸	56	72	68	51	54	64	67	63	70	63	60	78	766
脳神経外科	3	0	0	4	2	3	3	10	8	3	9	11	56
産婦人科	7	9	9	4	7	3	4	5	5	9	8	7	77
泌尿器科	49	47	55	49	64	66	52	50	53	59	56	69	669
耳鼻咽喉科	20	21	31	20	25	21	15	19	29	21	19	22	263
皮膚科	9	10	9	7	9	6	9	7	5	2	3	4	80
がん以外	56	56	47	57	62	62	59	58	54	48	48	52	659
外来合計	514	587	535	481	552	534	561	561	502	495	496	532	6,350
造血器	98	81	109	119	151	132	144	114	117	157	151	133	1,506
肺	74	74	90	83	94	57	67	99	82	81	67	73	941
食道	31	19	29	16	21	18	19	18	16	18	24	10	239
胃	0	0	2	2	2	1	2	4	0	3	1	2	19
肝・胆・膵	10	6	5	9	8	5	6	9	6	4	8	2	78
乳腺	1	2	3	1	3	4	0	1	1	0	0	4	20
大腸	10	7	10	12	4	10	7	6	11	2	5	1	85
脳神経外科	1	2	2	3	5	11	11	5	3	8	4	5	60
産婦人科	5	2	7	8	2	4	7	6	7	6	10	11	75
泌尿器科	17	14	21	29	21	36	28	24	26	30	16	19	281
耳鼻科	28	22	14	16	8	8	9	24	18	9	17	12	185
皮膚科	2	3	4	3	1	0	0	0	0	1	0	0	14
がん以外	4	6	4	3	5	5	7	4	3	3	14	10	68
入院合計	281	238	300	304	325	291	307	314	290	322	317	282	3,571
総合計	795	825	835	785	877	825	868	875	792	817	813	814	9,921

キ 令和5年度月別注射箋枚数（入院）

月別	注射箋枚数
4月	14,416
5月	14,548
6月	14,916
7月	14,674
8月	14,797
9月	14,008
10月	14,693
11月	14,233
12月	13,906
1月	15,242
2月	14,360
3月	14,175
合計	173,983

(2) 薬剤管理指導業務

令和5年度は、新たに5病棟で病棟薬剤業務を開始したことにより、年間の算定件数は16,021件（前年比53.3%増）となりました。

令和5年度診療科別・病棟別年間薬剤管理指導件数

診療科	薬剤管理指導件数	病棟	薬剤管理指導件数
内科	7,074	8N	28
精神・神経科	25	8S	14
小児科	4	9N	25
外科	2,330	9S	162
心臓血管外科	80	9W	7
脳神経外科	352	10N	2,280
整形外科	2,613	10S	2,023
形成外科	159	11N	1,942
皮膚科	267	11S	1,329
泌尿器科	1,365	12N	2,249
産婦人科	459	12S	955
眼科	314	13N	1,105
耳鼻咽喉科	526	13S	1,443
歯科口腔外科	118	14N	772
救急科	335	14S	1,685
		ICU	2
計	16,021	計	16,021

薬剤総合評価調整加算件数 45件

(3) 薬剤師外来業務

泌尿器科において、手術及び検査のための入院予定の外来患者を対象に、常用薬の確認や術前中止薬剤の中止指示などを、薬剤師外来で行っています。

令和5年度は昨年度に比べ74件増加しました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
泌尿器科	53	65	65	72	58	51	61	65	71	52	71	64	748

(4) 薬品管理業務

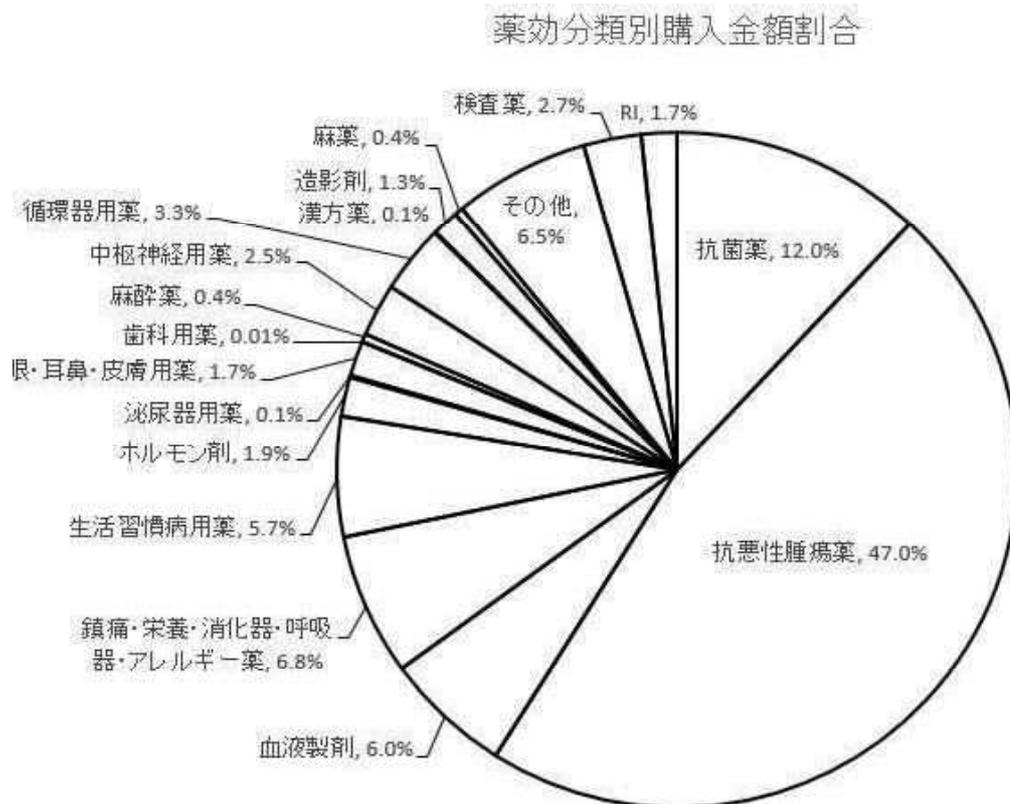
薬品購入金額は昨年度に比べ約108%、金額にして約2億8千万円の増加となりました。抗悪性腫瘍薬、循環器用薬、生活習慣病用薬、眼・耳鼻・皮膚用薬の高額製品の使用数の増加等の影響により前年度よりも増加しました。

[薬品使用状況]

ア 区分別使用割合

区 分	比 率 (%)	区 分	比 率 (%)
内 服 用 薬 品	13.47	そ の 他 薬 品	0.50
注 射 用 薬 品	76.62	麻 薬	0.41
外 用 薬 品	1.29	血 液	3.28
検 査 薬 品	2.74	放 射 性 薬 品	1.68

イ 薬効分類別購入金額割合



ウ 採用医薬品における後発医薬品の割合

令和6年3月における後発医薬品採用率及び使用率は、次のとおりでした。

採用薬品数	先発医薬品	後発医薬品	合計	後発医薬品 採用率 (品目シェア)
	892	504	1,396	36.1%
入院使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	224,978	208,275	388,220	93.1%
外来使用数量	後発あり先発 + 後発医薬品	後発医薬品	全医薬品	後発医薬品 使用率 (数量シェア)
	26,626	23,840	59,282	88.7%

(5) 医薬品情報管理業務

日本病院薬剤師会への薬剤師介入事例報告（プレアボイド報告）は、昨年度より89件減少しました。

令和5年 度月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
プレア ボイド 報告 (様式1)			1		1								2
プレア ボイド 報告 (様式2)	3	4	3	2	4	1	4	3	1	2	2	1	30
プレア ボイド 報告 (様式3)	1	1	1	2	2	1						1	9

様式1：重篤化等回避報告

様式2：未然回避報告

様式3：薬物治療効果の向上